



チュニジア共和国 (Republic of Tunisia)



- チュニジアへの援助総額は2014年までに累計約3,367億円。
- チュニジアの安定と経済発展は、同国の発展だけでなく、資源豊富な中東・北アフリカ地域やサブサハラ・アフリカ地域の安定的・持続的な発展にも資する。
- 日本の技術や知見を積極的に活用し、同国の諸改革と安定的な体制移行を達成しつつ、持続的な経済発展ができるよう同国の自助努力を支援。

国概要

(基礎データ)

- ・ 面積: 16.4万平方キロメートル(日本の約5分の2)
- ・ 人口: 約1,099万人(2014年, 世銀)
- ・ 首都: チュニス(首都圏人口約264万人(2015年, チュニア国立統計局))
- ・ 民族: アラブ人(98%), その他(2%)
- ・ 言語: アラビア語(公用語), フランス語(国民の間で広く用いられている)
- ・ 宗教: イスラム教スンニ派(ごく少数だがユダヤ教, イスラム教シーア派, キリスト教も信仰されている)
- ・ 政体: 立憲共和制
- ・ 議会: 一院制(217議席)
- ・ GDP: 43億ドル(2015年, 世界銀行)
- ・ GNI: 一人あたり 4,420米ドル(2014年, 世界銀行)
- ・ 経済成長率: 0.8%(2015年, チュニア国立統計局)
- ・ 失業率: 15.4%(2015年, チュニア国立統計局)

※特に注がない場合は外務省ホームページをもとに記載。

(略史)

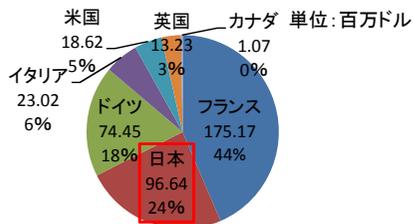
紀元前9世紀	都市国家カルタゴとして栄えたペルベルとフェニキア文化が融合する
紀元前146年	ローマ帝国がカルタゴを征服
439年	ゲルマン系ヴァンダル族がカルタゴを占領し、ヴァンダル帝国を建設
533年	東ローマ帝国がヴァンダル帝国を滅ぼし、ビザンチン文化が開花
7世紀	アラブ侵入、イスラム化の始まり
1574年	オスマン帝国の属州となる
1881年	フランス保護領となる
1956年	フランスより独立 翌年7月、共和制に移行し、ブルギバ大統領就任
1989年	ベン・アリ大統領就任
2011年	「自由と尊厳の革命」(アラブの春)、ベン・アリ大統領が国外退去
2014年	新憲法公布(1月)、国民代表議会選挙(10月)、大統領選挙(11-12月)

援助実績

スキーム	額(累計) / 人数(延べ)
円借款	約3,045億円 (2014年度末時点)
無償資金協力	約60億円 (2014年度末時点)
技術協力	約262億円 (2014年度末時点)
青年海外協力隊	延べ351人 (2015年1月より派遣停止)
シニア海外ボランティア	延べ158人 (2015年1月より派遣停止)

出典: ODA国別データブック2015
青年海外協力隊事務局統計(平成28年6月末)
(注) 青年海外協力隊には、短期派遣ボランティアを含む。

チュニジアへの主要ODA供与国 (G7加入国: 2014年実績, 出典: OECD/DAC)



経済関係

スキーム	金額 / 人数(直近年)
日本からチュニジアへの輸出	約98億円 (2015年, 財務省貿易統計)
チュニジアから日本への輸出	約148億円 (2015年, 財務省貿易統計)
在チュニジア日系企業数	16社 (2016年, 在チュニジア大使館)

人的つながり

項目	人数(直近年)
チュニジアにおける在留邦人数	127人 (2015年10月, 海外在留邦人数調査統計)
在日チュニジア人数	375人 (2015年6月, 法務省在留外国人統計)
日本からチュニジアへの留学生数	6名 (2015年, 在チュニジア大使館)
チュニジアから日本への留学生数	9名 (2015年, 外国人留学生在籍状況調査)
日本からチュニジアへの観光客数	6,200人 (2014年, 日本政府観光局)
チュニジアから日本への観光客数	833人 (2014年, 日本政府観光局)

日本とチュニジア共和国との協力年表

年代	案件
1956年6月	日本はチュニジア共和国を承認 査証免除取極(日仏査証免除取極を独立後も継続)
1960年	貿易取極締結
1962年	チュニジア通商代表部(大使館の前身)を東京に設置
1969年2月	在チュニジア日本大使館設置
1975年	JICAチュニジア事務所設立
1975年	対チュニジア経済協力開始(ボランティア事業)
1976年	(株)伊藤忠が日系企業として初めてチュニジアに事務所を設置
1977年	対チュニジア初の有償資金協力(「海運輸送力増強計画」)
1978年	対チュニジア初の技術協力プロジェクト(「薬品品質管理」)
1977年2月	駐日チュニジア大使館設置
1984年10月	合同委員会の設置を決定 第1回は1985年12月 現在まで8回実施されている
1985年	対チュニジア初の無償資金協力(「テュニス大学付属高等技術専門学校に対する教育・研究機材」)
1987年	日本チュニジア協会(民間)設立
1999年	ラデス-ラグレット橋建設計画(有償資金協力: 約84億円)
2002年	シニアボランティア派遣事業開始
2005年	瀬戸市とナブール市の姉妹都市提携
2005年	ボルジュ・セドリヤ・テクノパーク建設計画(有償資金協力: 約82億円)
2011年	選挙監視団の派遣(制憲国民議会選挙)
2014年	選挙監視団の派遣
2014年	日・チュニジア商工会議所の設立
2016年4月	日・チュニジア・治安・テロ対話の実施



ラデス-ラグレット橋建設計画

本事業はグラント・チュニス地域の南北をつなぐ道路として、南側のラデスと北側のラグレットを結ぶ橋梁を建設することにより、チュニスの交通渋滞の緩和、及びチュニス湖周辺の交通の円滑化を通じた周辺地域の開発への寄与を図ることを目的としたもの。完成以降、首都では渋滞が緩和された。



ボルジュ・セドリヤ・テクノパーク建設計画

首都チュニス近郊に建設される科学・産業技術集積拠点(テクノパーク)における高等教育機能及び研究開発機能部分の建設・機材調達・留学支援・コンサルティング・サービスを実施。理工系人材の育成及び研究開発能力の向上を図り、もって当国の産業競争力の強化や雇用促進を通じた経済発展のための人材育成に寄与。



ボランティアの取組みの様子